



# 福島原子力事故関連情報アーカイブ

FNA

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	京大大学生存圏シンポジウムを介した東日本大震災の復興支援研究
Alternative_Title	Study for supporting reconstruction of the Great East Japan Earthquake through the Kyoto University Sustainable Humanosphere Symposium
Author(s)	上田 義勝(京都大学), 徳田 陽明(滋賀大学), 杉山 暁史(京都大学), 伊藤 嘉昭(京都大学), 二瓶 直登(東京大学) Ueda, Y.(Kyoto Univ.); Tokuda, Y.(Shiga Univ.); Sugiyama, A.(Kyoto Univ.); Ito, Y.(Kyoto Univ.); Nihei, N.(Univ. of Tokyo)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.110 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション4: 環境再生・復旧・復興、リスクコミュニケーション
Text Version	Publisher
URL	<a href="http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109527">http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109527</a>
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



# 京都大学生存圏シンポジウムを介した東日本大震災の復興支援研究

上田 義勝<sup>1</sup>, 徳田 陽明<sup>2</sup>, 杉山 暁史<sup>1</sup>, 伊藤 嘉昭<sup>3</sup>, 二瓶 直登<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 京都大学生存圏研究所, <sup>2</sup> 滋賀大学教育学部,

<sup>3</sup> 京都大学化学研究所, <sup>4</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科

## 1. 緒言

我々は、震災直後から福島県農業総合センターと震災復興のための連携支援研究を開始し、除染や農作物の環境放射能測定などを行ってきた。2015年度も第293回生存圏シンポジウムとして福島県との震災復興関連のシンポジウムを京都大学にて開催している。この震災シンポジウムは2011年度より継続して開催しており、今年で5回目となる。5年目の節目ということで、改めて、我々の福島県との震災復興支援活動についての支援研究について報告し、今後の発展に繋げたい。

2011年度（平成23年度）からの福島県と関連した活動に関するリストを下に記す。元々は、個人的なつながりから福島との連携支援研究を開始した経緯があるが、その後、予算的には京都大学総長裁量経費の他、除染実証事業と発展し、それらの研究成果を一般向けに公開する事を目的として、第191回生存圏シンポジウムを開催するに至っている。京都での4回のシンポジウムと、福島での1回のシンポジウム、また京都大学原子炉実験所の見学も兼ねた支援研究会議なども行ってきており、国立大学法人との共済、京都府の後援などのおかげもあって総計300名以上の参加があった。

## 2. 福島県での連携支援研究

2011年度から始めている研究活動としては、除染と農業利用に関する研究が挙げられる。除染研究としては、微細気泡技術やケイ酸ナトリウムの圧壊処理技術などを用いた居住圏の除染技術の開拓を行った。また農業利用に関しては、福島県下における農作物の放射性セシウム吸収についての知見を福島県農業総合センターにおいて議論し、その情報について、シンポジウムにおいて広く公開した。また現在も継続して現地試験も行っており、今後の復興支援のための活動を行っている。

## 3. 今後の展望

今後の展望については、シンポジウムを通しての産官学連携を続けつつ、より幅広い活動として、国際的な連携も見据えた活動を続けたい。特に、国際シンポジウムとしては、すでにポーランドの研究者との共同研究を開始しつつあり、連携を視野にいたした活発な研究支援も継続して続けて行きたい。

## 謝辞

本取組は、福島県農林水産部、福島県農業総合センター、京都大学原子炉実験所、京都大学放射性同位元素センター、東北農研機構福島研究拠点、福島大学、島根大学、京都女子大学との協力の下、実施したものである。

### 2011年度(平成23年度)

- ・京都大学総長裁量経費による活動
- ・日本原子力研究開発機構 平成23年度除染技術実証試験事業
- ・国立大学協会 震災復興・日本再生支援事業(H23-H25)
- ・第191回生存圏シンポジウム(京都府にて開催) 2012.1.6
- ・福島県農業総合センターとの連携研究

### 2012年度(平成24年度)

- ・第215回生存圏シンポジウム(京都府にて開催) 2012.11.30
- ・生存圏科学の新領域開拓に向けた取り組み(福島県との連携研究) 2013.2.21

### 2013年度(平成24年度)

- ・第240回生存圏シンポジウム(京都府にて開催) 2013.12.20
- ・(第2回)生存圏科学の新領域開拓・融合研究に向けた取り組み 2014.3.4
- ・第2回新化学技術研究奨励賞(特別課題) 東日本大震災関連

### 2014年度(平成24年度)

- ・第271回生存圏シンポジウム(福島県にて開催) 2014.12.7
- ・(第3回)生存圏科学の新領域開拓・融合研究に向けた取り組み 2014.12.7
- ・(第4回)生存圏科学の新領域開拓・融合研究に向けた取り組み -福島県及び大学間連携融合研究に向けたパネルディスカッション- 2015.3.9

### 2015年度(平成25年度)

- ・第293回生存圏シンポジウム(京都府にて開催) 2015.9.8

